

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報



あの町この町
カスタンハル Castanhal

特集 政府主導で技術のプラットフォーム

- ・ 社会政策としてのフィンテック「PIX」浸透
- ・ 独自開発の人工衛星、宇宙事業の基盤に



新規会員募集中!

詳しくは P21 をご覧ください。



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人: 大前孝雄/編集人: 岸和田仁



TRADE & DEVELOPMENT BANK

モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

“蒼天よりも高く”

突き抜けるような雲ひとつない青い空ー蒼天(そうてん)

モンゴルは蒼天の国です。そのモンゴルでリーディングバンクとして活躍している

銀行がTDBです。日本とモンゴルの間の貿易・投資に関わる貿易金融や

外国為替を取り扱っています。私たち東京駐在員事務所はモンゴルの蒼天につながる

日本の玄関口です。日本のお客様からのご相談をお待ち申し上げております。



モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1

丸の内永楽ビル2303

TEL:03-4588-3945

FAX:03-4588-3947

<http://tdbm.jp/>

詳しくはコチラ→



◎最寄り駅:東京メトロ東西線大手町駅B1出口直上



目次

あの町この町 カスタンヤル [小林雅彦]	3
ブラジル・ナウ 技術革新を象徴するエンブラエルと ブラジルのフードテック [編集部]	5
【特集】政府主導で技術のプラットフォーム 社会政策としてのフィンテック「PIX」浸透 [編集部]	6
【特集】政府主導で技術のプラットフォーム 独自開発の人工衛星、宇宙事業の基盤に [編集部]	8
ブラジルからみた 東京オリンピック・パラリンピック [沢田啓明]	10
ブラジル現地報告 居酒屋でコロナと闘う [藤原美明]	12
連載・日系企業シリーズ Sumitomo Rubber do Brasil 10年の格闘 [脇谷宜典]	13
連載・ビジネス法務の肝 ブラジルにおける飲食店開業に関する法制度 [柏 健吾/倉智隆昌]	14
連載・税務の勘どころ ブラジル国税庁 (Receita Federal) 2021年税務調査計画 今後の焦点項目 [ベドロ・アンデルス/三上智大/天野義仁]	15
エッセイ 教え教わり一期一会(前編)~コロナ禍で深まるブラジルとの絆 [KTa ☆ brasil]	16
ウーマン・アイ 東京オリパラで出会ったブラジル人選手 [今井真澄]	17
ジャーナリストの旅路 学んだ教訓は… [山本太一]	17
連載・文化評論 北海道からサンパウロへ 気鋭の社会派ミステリー作家の最新作『灼熱』を読む [岸和田仁]	18
キャンパス・コラム 日伯サステイナビリティフォーラム 2021 報告 日伯関係の転換はいかにして可能か [倉内ひかり]	19
新刊書紹介	20
連載・ブラジルあれこれ パウロ・シャーベス (3-終)	20
協会からのお知らせ	21



写真=永武ひかる
「表紙のひとこと」

「ブラジル独立運動の先駆的英雄の名を冠したりオのチラデンテス宮殿。その天井ドームは共和制宣言がされた 1889 年 11 月 15 日夜の星空を表す。州議会議事堂としても使われてきたが、その移転により、今後はデモクラシー・ミュージアムになる」

永武ひかる: ブラジル撮影約 30 年、著作に写真絵本「世界のともだち 3 ブラジル」(偕成社)等。
www.hikarunphoto.com

カスタンヤル Castanhal

カスタンヤル市は、ブラジル北部パラ州 (Estado do Pará) の州都ベレン (Belém) 市から東へ約 65 キロ、車で 1 時間の距離にあるパラ州第 5 の市だ。もともとの地域の開発のため北東部からの移民導入が計画され、19 世紀末には大西洋岸に近いブラガンサ (Bragança) とベレンを結ぶ鉄道の建設がはじまり、カスタンヤルはその中継地として発展した。市の名前のカスタンヤルは、この鉄道の駅が建設されたところに大きな栗の木 (castanheira) があったことからこの名前がついたという説がある。現在市の人口は約 20 万人で、面積は、約 1000km²である (2020 年 IBGE)。



州都ベレンに近く、パラ州各地に至る道路交通網の要所にあり、港湾にも近いという恵まれた立地条件を生かして、同地に北伯有数の工業団地 (polo industrial) を整備する計画が進行中だ。

カスタンヤルといえば、トメアスー (Tomé-Açu) とともにパラ州を代表する日系社会があることでも知られる。日系の方々は、伝統的な胡椒や油やし (dendê) 農場の経営、OYAMOTA 社に代表される中堅企業経営や、弁護士、会計士、医師などの専門職に就く人も多く、日系社会の職業分布は多彩である。

日系社会は、カスタンヤル日伯文化協会 (ACNBC: Associação Cultural Nipo-Brasileira de Castanhal) を中心によくまとまっている。年間を通じ、運動会、すし祭り、和食祭り、盆踊り、カラオケ大会などが開催されている。ベレンに勤務していた時には、毎回これらのイベントに招待され出席したが、強く印象に残ったことは、主に 2 つあった。

1 つには、毎回、日系人に加えそれ以上の数の地元の非日系の人たちが参加していたこと。盆踊りの輪の中にはたくさんの非日系の人々も参加し、楽しんでた。また、これらの催しには、多くの人が集まるということで政治家も多く訪れ、地元の人と交流する場になっていた。地元政治家も一目置くという感じで、日系社会の存在感を感じた。

2 つ目には、会場で供される和食が非日系の人たちにも好評を博していたこと。また、主に日系の若者が、屋台で焼きそばを販売する等若い世代も積極的に参加しそれぞれが居場所を確保していたこと。

これらのことは、最近では、ブラジル各地でみられるようだが、日本食を含む日本文化が広くブラジルにおいて非日系の人を含め受け入れられていることを表していて、日伯文化交流の最前線の風景と言える。トメアスーでもそうだったが、このような行事の際には、日系団体の婦人部が徹夜で準備する、ジャンプー (jambu: 噛むと舌が痺れる野菜) はじめ地元食材も取り入れた和食が本当においしかった。

小林雅彦 (協会理事)



あの町、
この町

▲市のシンボルのキリスト像
(1982 年市制 50 周年記念
高さ 24 メートル)



▲和食祭りポスター (2019 年)

食と化学で未来を拓く



Recrutamento de pessoal brasileiro

正社員募集中

ブラジル出身者歓迎

ブラジル現地法人の代表

もしくは 現地法人担当者として 一緒に働きませんか？

現地法人代表 現地でのワイナリー立ちあげ、運営をお願いします。

[勤務地] 〒564-0054 大阪府吹田市芳野町 18 番 23 号 / ブラジル ポルトアレグレ郊外

※入社から半年～1 年日本で研修後、代表者としての適性を判断し、ブラジルへ赴任

[基本給] 350,000 円 (月給制) 年間休日 116 日 週休 2 日 (土日その他)

[就業時間] 8:20 ～ 16:40 (休憩時間 60 分) [試用期間] 6 ～ 12 か月 (試用期間中の労働条件 同条件)

現地法人担当 日本国内から現地法人のサポートをお願いします。(ブラジルへの転勤の可能性有)

[勤務地] 〒564-0054 大阪府吹田市芳野町 18 番 23 号

[基本給] 180,000 円～315,510 円 (月給制) 年間休日 116 日 週休 2 日 (土日その他)

[就業時間] 8:20 ～ 16:40 (休憩時間 60 分) [試用期間] 6 ～ 12 か月 (試用期間中の労働条件 同条件)



昭和化工株式会社

〒564-0054 大阪府吹田市芳野町 18-23

TEL:06-6384-1501

<http://www.showakako.co.jp/>



BRASIL NOW

ブラジル・ナウ

技術革新を象徴するエンブラエルとブラジルのフードテック

コロナ禍がもたらした航空機需要激減というインパクトに直撃されたのは、ボーイングと三菱飛行機であった。ボーイングの場合は、連続墜落事故の原因調査によって最新鋭機の製造品質管理体制のずさんさが暴露され、その納品が一旦中断したことで経営が赤字転落してしまったところに、コロナ禍が追い打ちをかけた形となって、一挙に史上最悪の赤字を出してしまった。三菱の場合は、開発途上で大幅な設計変更を余儀なくされるなど技術調整力不足を露呈したため、MSJ機の納入予定（当初は 2013 年）の延期を数回繰り返すこととなり、その軌道修正が出来ないうちにコロナ禍が襲来し、製造の中断（実質的な撤退）という苦渋の決断を下すことになった。

このコロナ・パンデミックのインパクトに柔軟かつ機敏に対応できたといえるのが、世界第三位の航空機メーカーとして地歩を固めていたエンブラエルだ。試作機段階で終わった三菱 MSJ とほぼ同じ規格・能力を有する最新鋭機 E190-E2 (座席数 114) や E195-E2 (座席数 144) を相次いで 2018 年、19 年に市場へ投入し、既に計 200 機以上の受注を確保していたが、コロナ禍の影響で納入時期の延期など一時的戦線縮小を余儀なくされたのが初期の段階だった。さらなる痛手は、2019 年に基本合意したボーイングとの JV 契約という航空機業界再編成を象徴する新フェーズが 2020 年 4 月に白紙撤回されてしまったことだ。この JV 設立で流入するはずだった巨額のドル資金が幻となり、財務計画は大幅な修正を余儀なくされたが、必死の経営努力の結果、2021 年第一四半期の事業数値は赤字から黒字に転じている。

そのエンブラエルが、なんと野心的な新プロジェクトを 8 月に発表した。その機種名は TPNG である。これは、次世代ターボプロップを意味する英語の頭文字から名付けたもので、9 月になって公表された主要スペックは、巡航速度 555km/hr、航続距離 1,500-1,600km、座席数 74-90、燃料効率（既存の同類機種よりも）15% から 20% の燃費節減、となっている。双発機だが、2 基のエンジンは主翼でなく尾翼に組み込まれており、エンジンはジェットではなく、ターボプロップ・プロペラエンジンで、燃料は化石燃料でなく水素と発表されている。この新機種のレイアウトが SNS に公開された時、双発エンジンが尾翼に配置され、しかもジェットでなくターボプロペラ、という異例なイメージ図に航空関係者ばかりかメディアも大きな関心を寄せたのであった。納入見込は 2027 年～2028 年となっているから、この新型水素エンジン双発機が空中を舞うのはそれほど先のこ

とでもなさそうである。

エンブラエルは、昨年 2020 年 10 月には電動式の「空飛ぶクルマ」と呼ばれる小型飛行機の開発に参入すると発表していたので、カーボンニュートラルに配慮した中長期的戦略の一環として、電動式小型機や水素エンジン機という新規プロジェクトを展開していくのであろう。

ブラジルのフードテック：植物性代替肉

ブラジルの技術革新を象徴する、もう一つの事例は、フードテックといわれる食品業界におけるスタートアップの活躍である。既に複数のベンチャー企業が名乗りをあげているが、一番脚光を浴びているのが、Fazenda Futuro 社（直訳：未来農場）だ。

2019 年に創設され、現在ブラジルでも海外でも注目されている同社の主要商品群は、植物性タンパク質由来の代替肉を加工したものだ。具体的には、植物性ハンバーグ、植物性ミートボール、植物性ソーセージ、植物性ひき肉といったところだが、9 月に入って新商品が発売された。植物性ツナ肉（シーチキン・フレークタイプ）である。ツナサラダなどに使うツナ缶の植物原料版なので、ベジタリアンもツナ缶好きな中産層も面白がって購入しているとのことだ。

9 月 8 日付けのエスタド・デ・サンパウロ紙はこの植物性ツナ缶型新商品の、おいしさ、手軽さ、リーズナブルな価格（150 グラムパックで末端価格 R\$12.90）を、実に好意的に報道していたが、同記事によれば、「未来農場」社の工場所在地は、リオ州ヴォルタ・ヘドンダで、創業時の加工能力（月産 115 トン）は、翌年 2020 年 9 月の増設によって、月産能力 600 トンとなっている。同社の代替肉製品の原材料は、大豆・ビート（サトウダイコン）・エンドウ豆・ヒヨコ豆など、であるが、新商品ツナ缶型の主な原材料は、大豆・エンドウ豆・ヒヨコ豆・オリーブ油・赤カブ、とのことだ。

同社製品の販路はブラジル国内にとどまらず、海外（米国や欧州）への輸出もコンスタントに継続しており、その品質はフードテック関連の国際品評会でも何回も入賞していることから確認済みで、投資ファンドからの資金提供も潤沢だ。そんな成長企業だけに、現時点での企業価値（時価評価額）は 7.15 億リアル（約 150 億円）となっている。

いうまでもなく植物性タンパク質由来の代替肉は、大規模畜産や水産資源乱獲が引き起こしている様々な環境負荷をより少なくする効果が期待されており、この文脈でもまさに「未来農場」といえるのだ。

ブラジル特報編集部

社会政策としての フィンテック「PIX」浸透

「ブラジル特報」編集部

2020年11月16日の運用開始以来、1年もたたないうちに即時決済システムPIXはブラジル社会に広く浸透した。システムを提供するのはブラジル中央銀行である。民間企業ではなく、政府自身がこのようなフィンテックの基盤を構築したのは、ブラジル社会に必要な公共性を追求したからである。PIXの普及状況とシステム開発の背景を、株式会社国際協力銀行（JBIC）リオデジャネイロ駐在員事務所首席駐在員の石川敬之氏の協力を得てまとめた。

便利なPIX、 個人や法人の利用急増

PIXを使えば、平日・休日、昼夜を問わず、数秒で送金が完了する。個人も法人も利用可能であり、個人による送金の場合には送金手数料がかからない。スマートフォンを使って店頭でQRコードを読み取れば、即時に支払いを済ませることができるため、現金を持ち歩く必要性が低下する。パソコンなどの画面に映し出されるQRコードを読み取れば、新型コロナ禍で需要が拡大したeコマースにも対応できる。

利用者に必要なのは、スマートフォンと決済口座だけである。PIXに参加する銀行や信用組合などの金融機関の口座のほか、カード会社などの支払いサービス機関に利用者が保有する口座が対象となる。PIXの取引は専用アプリではなく、それぞれの金融機関、支払いサービス機関が運営するアプリを通じて実行する。最初はPIXキー（Chave Pix）を登録する。納税者番号（法人の場合は法人登録番号）、携帯電話番号、電子メールアドレス、無作為キー（個人情報を外部に出したくない人のためにシステムが無作為に設定するキー）がPIXキーとなり、

利用者の口座とPIXを紐づける。

運用開始後9カ月を経過した2021年8月末時点での登録は個人が9979万人、法人は684万に達している。PIXは現実には活用されており、たとえば、同月、おカネを受け取った個人は8840万人、送金した個人は8380万人いた。利用実績は導入当初から大きく増加し、今年7月の月間決済額は5300億リアル（約11兆円）に迫り、導入翌月（2020年12月）の4倍強となった（表上参照）。今年8月の月間決済の数でいえば、個人間が全体の4分の3を占め、企業間では3%に満たないが、月間決済の金額で言えば、個人間41%、企業間35%と差が縮まる。

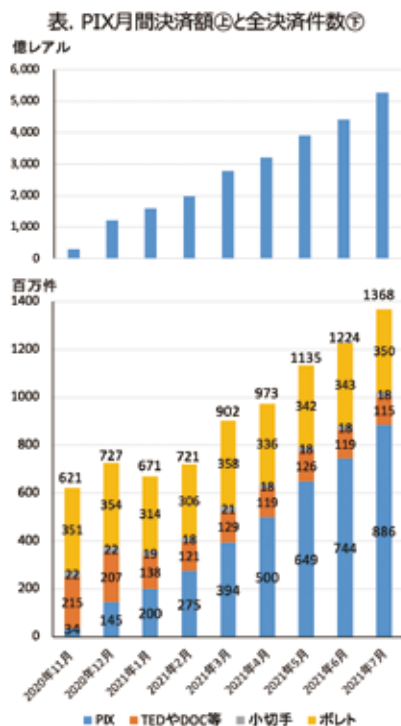
従来の決済手段と比べよう。ブラジルで金融機関から振り込む場合、代表的な方法として日本の電信扱いに相当するTED（夕刻までなら当日の処理）や文書扱いに相当するDOC（翌営業日に処理）がある。いずれも1件当たり10～20リアル程度の振込手数料を取られるうえ、時間もかかる。個人としては、手数料なしで即時送金できるPIXがあればTEDやDOCは存在意義を失う。中銀によると、PIXによる月間決済件数は昨年12月から今年7月までに6倍以上に増えたのに対し、TEDやDOC等による件数は半分近くに減少した（表下参照）。ブラジル銀行連盟が定める請求書「ボレト（Boleto）」を通じて銀行、郵便局、ATM、インターネットバンキングなどで支払う方式の利用件数は横ばいであるが、全体に占める比重は大幅に低下している。

貧困層や地方の住民の 「金融包摂」めざす

注目されるのは、PIXが単にTEDや

DOCなどのシェアを食っただけでなく、決済件数全体を2倍程度に膨らませている点である。PIX導入により現金決済の重要性が低下し、これまで電子決済に参加できなかった人々も含め、より多くの人々がより頻繁に電子決済を選択するようになったと考えられる。中銀によるこのようなフィンテックの採用は金融機関の手数料収入の減少につながるため、民業圧迫とも解釈できる。しかし、国民に等しく金融サービスを届けるという公共性に着眼した「金融包摂（inclusão financeira）」の考えがPIX導入の根底にあった」（ブラデスコ銀行マーケティング担当）。

貧富の格差の大きいブラジルでは、所得の多寡によって受けられる金融サービスにも格差がある。豊かな人々は大手銀行に口座をもつことができる。口座の維持・管理のための手数料はかかるが、ク



レジットカード、各種ローン、小切手、インターネットバンキングといったサービスを受けることができる。ただ、厳しい審査があり、貧困層は銀行口座を手に入れにくい。デビットカードを保有するため、フィンテック企業が運営する決済機能のみの口座を保有しようとする低所得者が多い。PIXは銀行口座だけではなく、審査が緩いフィンテック企業の口座も対象にしており、幅広い層を電子決済サービスに取り込もうとしている。

金融サービスから排除されている層として、もう一つ挙げられるのが地方の住民である。全国5500を超すムニシピオの4割強に銀行の支店がない。しかも、デジタル化の進行に伴って銀行の支店閉鎖が加速しており、サービス拠点の不足は深刻さを増している。この結果、銀行口座がないだけでなく、仮に保有していても口座を使えない人が多い。銀行のサービスから排除されている国民は全人口の2割に達するとみられ、フィンテックによりこの層を包摂することが金融当局としての責務となっていた。

中銀は金融包摂という観点から、PIXの機能拡充を計画している。たとえば、現金の引き出し支援である。国土の広いブラジルではアマゾン地方など遠隔地における現金の流通不足が深刻である。中銀は9月、PIXによる銀行ATMからの現金引き出し機能（PIX Saque）や、商品やサービスの購入時に購入価格を上回る金額をPIXで支払うことにより釣銭を受け取ることを可能とする機能（PIX Troco）を本年11月から導入すると発表した。このほか、将来的には料金の自動引き落としや給与振り込みにPIXを活用する計画もあるようだ。

貧しい人たちにもおカネを回そうとするマイクロクレジット政策は、ブラジルでは20世紀終わりから導入され、労働者党政権下で強化されてきた。PIX自体は貧困層への資金提供を伴うシステムではないが、金融機関に口座をもてない人、金融機関の支店が近くにない人に対して個人への負担をかけずに金融サービスを提供するという発想は、マイクロク

レジット政策と相通じる。

この考え方は低所得者向けの現金給付にも反映されている。条件付き現金給付ボルサ・ファミリアや新型コロナ感染拡大に対応した緊急支援金は2020年から、政府系の連邦貯蓄銀行（カイシャ）のデジタル口座に支給されている。このデジタル口座は店舗などに行って口座をつくらなくても、受給者に自動的に割り振られるもので、PIXとの連携も可能である。

WhatsApp一時差し止め、 海外送金も模索

個人にとってPIXと比較的類似した使い勝手の送金手段としては、ブラジルで普及しているメッセージアプリWhatsAppがある。実は、WhatsAppの送金サービスはPIXよりも一足早く2020年6月半ばに始まったのだが、その1週間後、ブラジル中銀と独禁当局は競争やプライバシーなどの観点から規制当局による事前の分析が必要などとして運用を停止させた。再開を認めたのはPIX普及後の2021年3月末であり、実際に再開したのは同年5月である。WhatsApp Payの利用にはデビットなどのカードが必要であり、金融包摂という点ではPIXに比べて物足りない。

本稿は金融包摂に重点を置いたが、PIXの狙いは他にもある。業界の競争促進や中銀の機能強化である。中銀がシステムを自主開発し、プラットフォームを提供することにより、フィンテック企業などの新規参入が容易になる。中銀にとっても自らの送金・決済システムに金融機関やフィンテック企業を参加させることにより、監督機能を発揮しやすくなり、例えば民間の暗号資産（仮想通貨）拡大をけん制し、「中央銀行デジタル通貨（CBDC）」の時代に備えることができるとの見方もある。

金融機関の手数料収入への影響はいまのところ個人取引に限定されているとみられる。PIXを使った個人の送金手数料はゼロだが、企業に対しては手数料が徴



収できるためだ。各金融機関による任意の設定になっているうえ、取引状況に応じて手数料の設定が変わるため、実態はつかみにくいが、従来の法人向け手数料体系と比べて必ずしも銀行の打撃は大きくないと考えられている。一方で、既存の金融機関も各行独自のシステム開発コストや現金の取り扱いコストを削減できる可能性がある。

サービスの供用開始以来、大きなシステムトラブルやハッキングなどのセキュリティ上の混乱は発生していない（2021年8月末時点）。チャリティを装ってネット上のQRコードからPIXで資金を吸い上げるといった不正な使われ方は報告されているが、システム自体の脆弱性を突いた問題はみられない。

現在、この送金システムは国内利用に限られている。しかし、2018年末からシステム開発を本格始動した中銀は元々、海外送金もできるシステムを検討しており、当初はPIXを2021年3月に導入予定だった。前倒しして2020年11月から運用を始めたのは、技術的な理由で海外の金融機関との接続が困難になり、その分、システム開発の手間がかからなくなったためである。それでも中銀は海外との接続を完全に断念したわけではなく、2024年以降に海外送金を可能にする道を模索しているとされる。

送金者の年齢別決済件数シェアをみると、世代間の差が浮かび上がる。シェア上位の20代と30代が合わせて全体の3分の2を占める一方、40代以上をすべて合計しても3割にしかならない。若い人ほど気軽に使うシステムといえる。今後、19歳以下の層がスマートフォンや決済口座をもつようになれば、その多くがPIXユーザーになると予想される。伸び率は鈍化するかもしれないが、PIXの浸透は今後も続く。

（文責：中央大学講師・松野哲朗）

●特集● 政府主導で技術のプラットフォーム

独自開発の人工衛星、宇宙事業の基盤に

「ブラジル特報」編集部

今年2月28日にインド南部から打ち上げられた地球観測衛星「アマゾンA 1」はブラジルが初めて独自開発した中型の人工衛星である。衛星の運用に必要な各種システムを搭載する汎用プラットフォームづくりがこの事業の技術面の目的である。構築に成功すれば、今後の開発にかかるコストと時間を削減でき、自前の衛星を展開しやすくなる。ブラジルの熱帯林監視を長年支援している宇宙航空研究開発機構（JAXA）の協力を得て、60年間にわたるブラジルの宇宙開発における今回の衛星の位置付けを探った。

20年越しの取り組み、今後の衛星展開の出発点

アマゾンA 1は北極と南極の上空を通るように地球を縦に回る極軌道衛星である。光学センサーを搭載し、アマゾンなどの森林伐採や農業、海岸線、貯水などの監視・観測にあたる。地球全体をまんべんなく撮影することが可能で、850kmの観測幅で5日ごとに同じ場所を撮ることができる（写真A参照）。

ただ、センサーの地上分解能は60mであり、高精度とは言い難い。より精度の高い画像を得るには他の国の衛星データをもらうしかない。しかも、光学センサーは光で観測するため、上空に雲があるときや地球の夜側を飛んでいるときは観測できない。特に熱帯雨林は一年の半分以上が雨季で曇っているため、「光学衛星では地表を有効に観測できる頻度は低くなる」（JAXA）。レーダーならこの問題は解消できるが、アマゾンA 1ではレーダー観測ができない。

つまり、アマゾンA 1によりブラジルの観測の質が大きく高まるわけではない。国立宇宙研究所（INPE）が今回の事業の技術面での意義は汎用プラットフォームの構築にあると強調するのはこのためである。今後、自前の観測衛星を展開するための第一歩なのである。

このプラットフォームは「マルチ・ミッション・プラットフォーム」（PMM）と呼ばれる。どんな衛星にも共通する運用上欠かせないシステムを集めた部分である。具体的には、姿勢や軌道を制御するシステム、太陽光発電やバッテリーなどから成る電力供給システム、送受信機やアンテナなどで構成する地上との通信システム、ロケットエンジンなどの推進システム、熱制御システム、さらにそれらの機器を格納する構造体に分けられる。安定的なプラットフォームを構築できれば、今後、同じくらいの重さの衛星を打ち上げる際はこのプラットフォームを利用し、目的に応じた機器を載せれば、様々な人工衛星を自前で開発できる。開発のための時間も費用も少なくて済む。

このようなプラットフォームは一般的に衛星バスと呼ばれ、決して新しい発想ではない。INPEは2000年代前半にはこの構想の具体化に着手しており、2005年にまとめられた国家宇宙活動計画（PNAE）にも盛り込まれている。計画の実行は大幅に遅れ、結局、20年越しの取り組みとなった。自前の衛星のネットワークができれば、米中などの宇宙技術先進国が主導する事業に参加して共同開発した衛星とは異なり、独立した運用が可能になる。アマゾンAの事業ではさらに2基の開発が予定されている。

航空宇宙技術の集積地に手づくりの現場

独自開発といっても、すべてを政府や

国内企業が開発・製造したわけではない。たとえば、プラットフォームの各種システムのうち、姿勢軌道制御はアルゼンチンからの技術移転によって開発したものである。太陽の方向に太陽光パネルを向けたり、観測したい方向に観測機器を向けたりするには姿勢を制御する必要がある。JAXAによると、衛星のサイズが大きくなり、それに合わせて太陽光パネルを左右に伸ばす必要が生じると、ジャイロとホイールによる3軸姿勢制御と呼ばれる技術が不可欠になる。ラテンアメリカ諸国ではブラジルとアルゼンチンが宇宙開発で先行しており、ブラジルは隣国の協力を得て3軸姿勢制御を可能にした。このほか、太陽光パネルの技術は中国から取り入れ、通信や電気システムに必要な部品は輸入している。

ブラジルが開発した初期の人工衛星といえば、1990年代に米国から打ち上げられた環境データ収集用の2基が挙げられる。ただ、これらは技術習得の途上で生まれた100～150kg級の小型衛星だった。これに対して、アマゾンA 1の重量はおよそ640kg。500kg級以上の中型衛星はコストがかさみ、事業遂行には体力が求められる。1000kgを超す大型観測衛星も多いが、近年は1つの衛星にたくさんの機能を詰め込むのではなく、より小さい衛星を複数飛ばして地球を高い頻度できめ細かくカバーする「衛星コンステレーション」方式が増えており、地球観測にあたって500kg級という重量に不足はない。

ブラジルの宇宙開発で中心的な役割を演じるのは科学技術革新省と国防省である。前者の影響下にあるブラジル宇宙庁（AEB）が両省の関係機関の調整にあたり、10年計画であるPNAEを取りまとめる。開発の実行部隊は衛星に関しては科学技術革新省傘下のINPE、ロケットに関しては空軍の航空宇宙科学技術局

傘下の航空宇宙研究所（IAE）である。ロケットを打ち上げるアルカンタラ射場（マラニョン州）も空軍の航空宇宙科学技術局が監督している。

ブラジルの航空宇宙開発の最前線と言えば、サンパウロ州サンジョゼ・ドス・カンポスである。アマゾンA 1を開発したINPEやロケット開発にあたるIAEに加え、航空機メーカーのエンブラエルの本社所在地でもある。関連する人材を供給する航空技術大学（ITA）もあり、航空宇宙のクラスターが形成されている。

もっとも、航空機と人工衛星の開発・生産には大きな差異がある。航空機は大量生産を意識した国際的な分業体制が敷かれるのに対し、人工衛星は一品モノなので、大量生産という概念がない。通信衛星などはシリーズ化して複数の同型機を生産することはあるが、航空機と比べると生産数は少ない。このため、開発・製造の現場はそれぞれの衛星の目的に応じた手づくりの色彩が濃くなる（写真B参照）。

全方位の宇宙外交、技術と経験を蓄積

ブラジルの宇宙開発は米ソの宇宙開発競争のさなか、1961年にクアドロス大統領の下で始まった。INPEの前身が設立され、宇宙政策の立案、国際協調、専門家の育成、研究事業の推進にあたった。1960年代は米国と協力して、ロケット発射場を整備した。人工衛星開発が本格

的に始まったのはブラジル総合宇宙計画（MECB）が承認され、予算や人材の割り当てが増えた1979年からである。

1980年代、米国はブラジルに対する宇宙技術の提供に慎重になった。「ブラジルの軍事政権時の核開発計画が、米国の懸念事項となり、両国の関係は疎遠になった」（在ブラジル日本大使館）ためである。この時期、ブラジルは債務危機に陥り、単独では開発資金を調達できなくなった。

そこで、ブラジルは中国と提携して技術を吸収する道を選択した。中国は1970年、世界で5番目に人工衛星の打ち上げに成功していた。1988年、両国は衛星開発の協力で合意し、1999年から2014年にかけて地球観測衛星CBERSシリーズの打ち上げに4回成功している。主導権は中国にあり、いずれも中国の射場から打ち上げられている。

衛星の独自開発だけでは自立とは言えない。衛星を自前で打ち上げられるようになって初めて、他国に依存せずにすみ、打ち上げコストも抑制できる。ブラジルは衛星打ち上げロケットの開発に多くの予算をつぎ込み、射場も整備したが、21人の死者を出した2003年のアルカンタラ射場でのロケット爆発事故など、事故や失敗が続いている。打ち上げビジネスは現在、米国、欧州、ロシア、日本、中国、インドといった一握りの国・地域に限定されている。

2003年の爆発事故により、ブラジルのロケット開発は行き詰まった。原因を究明し、計画を修正するため、ブラジルはロシアと提携した。

さらに、ウクライナと組み、より大型のロケットを打ち上げる準備に入った。この事業は成功せず、ウクライナとの協力関係は2015年に解消されたが、目的達成のため、ブラジルは様々な国と宇宙外交

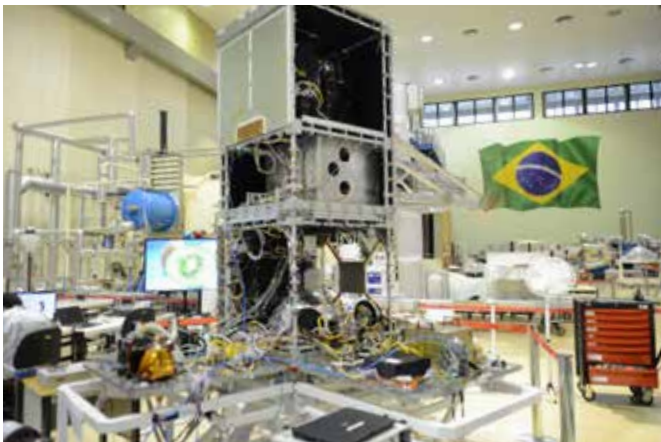
を繰り広げている。

今回のアマゾンA 1はインド南部のシュリーハリコータ砂州から打ち上げられた。その前年2020年1月にボルソナロ大統領がインドを訪問して「ブラジル・インド戦略的パートナーシップ強化に向けた行動計画」を締結している。宇宙分野での協力についても合意しており、これがさっそく実を結んだ形である。もっとも、ブラジルがインドの射場を選択した決め手はコストだったと考えられる。ある程度の重さがある衛星を載せたロケット打ち上げ1回には50億～100億円程度の費用がかかると言われる。インドでの打ち上げは比較的低コストで知られる。

米国との関係も維持している。「米国の働きかけもあって、ブラジル政府は2021年6月、米航空宇宙局（NASA）が主導する有人宇宙飛行計画であるアルテミス計画への参加を決めた」（在ブラジル日本大使館）。レーダー観測衛星の開発ではドイツとも組んでいる。日本（JAXA）はブラジルに衛星開発技術を提供した実績はないが、陸域観測技術衛星2号「だいち2号」のレーダー観測に基づく情報を提供している。この熱帯林早期警戒システム（JJ-FAST）は2021年に終了する予定だったが、2年間の延長が決まっている。レーダーは雲の影響を受けないため、「光学衛星のデータを補完できる」（JAXA）という。

幅広い国際協調作戦を展開し、技術を吸収し、人材を育てる重要性はエンブラエルの航空機開発が示している。ブラジルは宇宙開発でも同じ路線を採用している。アマゾンA 1の稼働により、ロケットと衛星の両輪のうち、衛星の独自開発についてようやく一歩進むことができた。事業を軌道に乗せるには忍耐が必要である。

（文責：中央大学講師・松野哲朗）



▲写真B. INPEにて開発・製作途中のアマゾンA 1（出所：INPE）

▲写真A. アマゾンA 1から撮影した首都ブラジリア（出所：INPE）



ブラジルからみた 東京オリンピック・ パラリンピック



沢田啓明
(スポーツジャーナリスト)

好成績を残したブラジル

東京 2020 オリンピック・パラリンピックで、ブラジルは健闘した。

獲得したメダルは、オリンピックが金 7、銀 6、銅 8 の計 21 個。金のはリオ 2016 と最多タイで、メダル総数はリオ 2016 を 2 個上回って史上最多。国別順位は、13 位から 12 位へ上がった。

パラリンピックでは、金 22、銀 20、銅 30 の計 72 個。金のがリオ 2016 を 8 個も上回り、メダル総数はリオ 2016 と並んで史上最多タイ。順位を 8 位から 7 位へ上げた。

開催国日本は、オリンピックで金 27、銀 14、銅 17 の計 58 個で世界 3 位と大躍進した。しかし、パラリンピックでは、金 13、銀 15、銅 23 の計 51 個で世界 11 位。オリンピックではブラジルを凌いだ、パラリンピックではブラジルが上だった。

スポーツの国際大会で、地の利がある開催国は好成績を残すことが多い。今大会の日本も、その例に漏れなかった。しかし、ブラジルはオリンピックもパラリンピックも、リオ 2016 を上回った。その理由として、ブラジル・オリンピック委員会 (COB) 関係者は、「近年、ブラジル政府が COB、各競技団体、アスリートへの補助金を増やしており、その強化の成果が表われている」、「リオ 2016 を目指して行なった強化の“遺産が”ある」などと説明する。

ブラジルのスポーツと言えば、世界中の誰もがフットボールを思い浮かべるはずだ。しかし、今やブラジルはフットボールに留まらず、世界のスポーツ大国の仲間入りを果たしつつある。

サッカーとバレーボール

東京 2020 では、お家芸のフットボール関連種目でも見事な結果を出した。

オリンピックで、男子 U-24 代表は 38 歳のベテラン右 SB ダニエル・アウヴェスがオーバーエージ枠で出場して主将としてチームをまとめ、A 代表の FW リシャルリソン (24、エヴァートン) も大会得点王に輝く 5 得点と活躍して、リオ 2016 に続く連覇を達成した。パラリンピックのブラインドサッカー (正式名称は 5 人制フットボール) では、グループステージで地元日本と対戦して 4-0 と快勝。決勝でアルゼンチンを下し、この競技がアテネ 2004 で公式競技となって以来の 5 連覇を飾った。ブラジル選手が視覚障害者とは思えないような驚異的なテクニックを発揮したことは、日本のスポーツファンにも強烈な印象を与えたのではない。

過去のオリンピックで、ブラジルがフットボール以上の好成績を残してきた競技がある。バレーボールとビーチバレーである。

獲得したメダル数が、フットボールが男女合わせて金 2、銀 5、銅 2 の計 9 個であるのに対し、男女合わせて金 8、銀 11、銅 5 の計 24 個と 3 倍近い。ただし、東京 2020 ではバレーボールで女子は銀メダル獲得したが、男子は準決勝で敗れて 4 位にとどまった。ビーチバレーは、男女共にベスト 8 止まりだった。

世界を席卷してきたブラジルのバレーボールとビーチバレーは他国から徹底的にマークされており、世代交代の時期に差しかかっていてもいた。パリ 2024 での巻き返しに期待したい。

体操女子 レベッカ・アンドラーデの活躍

今回のオリンピックでブラジル国民を

最も感動させた選手は、体操女子のレベッカ・アンドラーデだろう。

身長 151cm と小柄だが、全身がまるでゴムまりのように弾む。リズミカルでダイナミックな演技で、跳馬で金、個人総合で銀を獲得した。

彼女は、サンパウロの国際空港があるグアルーリョス出身。貧困家庭に生まれたが、「プロジェクト・ソシアル」(社会プロジェクト)を利用して体操の指導を受けた。



▲レベッカ・アンドラーデ (女子体操) [en.wikipedia.org]

これは、経済的に恵まれない家庭の子弟に無料でスポーツを教え、優秀な者には奨学金を与えて勉学の機会も与え、アスリートとして身を立てることを手助けする制度である。リ五輪の女子柔道 57kg 級で金メダルを獲得したラファエラ・シウヴァも、この制度を利用して高校を卒業し、ひいては世界王者となった。

アンドラーデは、練習場までのバス賃が払えず、2 時間近く歩いて練習場へ通ったこともあったという。ジュニアの大会で好成績を残し、リオ 2016 では個人総合で 8 位、団体で 11 位だったが、その後、猛練習を積んで急成長。度重なる故障も乗り越え、東京で大輪の花を咲かせた。

ブラジルの女子選手がオリンピックで複数のメダルを獲得したのは、彼女が始めて。まだ 22 歳と若く、今後が非常に楽しみだ。

ブラジルは、ロンドン 2012 でアルトゥール・ザネッチが男子釣り輪で金メダルを獲たのが最初の表彰台で、リオ大会で銀 2、銅 1、そして今大会で金 1、銀 1 を獲得した。ブラジル人の高い身体能力と優れたリズム感を生かして強化を続ければ、いずれ体操王国となるかもしれない。

サーフィン、セーリング、遠泳など

その他の競技では、東京 2020 から実施されたサーフィンの男子で、イタロ・フェレイラが決勝で五十嵐カノアを下して金メダルを獲得。ガブリエル・メジーナが 4 位に入賞した。

ブラジル国内では、2013 年と 18 年に世界チャンピオンになったメジーナがカリスマ的な人気を集め、金メダル獲得が期待されていた。このため、準決勝で五十嵐に敗れ、ブラジル国内では「地元有利の採点だったのではない」という懐疑的な声があった。しかし、サーフィンに詳しい知人のブラジル人記者は、「採点競技で、地元の選手だからといって有利になることはありえない。この競技を良く知らない人たちの外的な意見だ」と切り捨てた。

この他、ブラジルは女子セーリング、女子水泳マラソン、男子カヌー、男子ボクシング・ミドル級でも金メダルを獲得した。

ブラジル柔道：藤井監督に聞く

ブラジルは、柔道も強い。世界最多の約 200 万人の競技人口を有し、これまで金 4、銀 3、銅 17 の計 24 個ものメダルを獲得している (獲得したメダル総数は、バレーボール・ビーチバレーと並んで最多タイ)。



▲イタロ・フェレイラ (男子サーフィン) [en.wikipedia.org]

東京 2020 では、男子代表の監督を愛知県出身の藤井裕子が務め、66kg 級でダニエル・カルグニンが銅メダル。女子も、2012 年ロンドン大会とリオ大会でいずれも銅メダルを獲得したマイラ・アギアールが今度も銅メダルを手にした。

ブラジル柔道に初のメダルをもたらしたのは、栃木県足利市生まれで早大柔道部出身の石井千秋である。1964 年にブラジルへ移住し、ブラジルに帰化。ブラジル代表としてミュンヘン 1972 の 93kg 級に出場して銅メダルを獲得した。

藤井監督に、東京 2020 の開幕前と開幕後に話を聞いた。

大会前は、「新型コロナウイルス感染の世界的流行の真っ只中で行なわれるので、選手のコンディション調整もさることながら、選手の誰かが陽性となって他の選手も濃厚接触者として隔離されたり、あるいはウイルスが移って試合に出場できなくなるのが一番怖い」と懸念していた。

大会が終わると、「幸いにして、ブラジルの柔道チームは男女とも感染者も出さずに試合を終えることができた」と胸を撫で下ろしていた。その一方で、「日本での感染対策はとても厳格に行なわれており、試合会場となった日本武道館では決められた動線をたどるだけ。場内を一周することすら許されなかった」と驚いていた。

反対論、コロナ感染問題

大会前、日本ではオリンピック・パラリンピック開催によって感染がさらに拡大するのではないかと懸念が強かった。医療体制の逼迫やワクチン接種体制整備の遅れもあって、一時は国民の多くが開催に反対。さらに、このような状況でありながら国際オリンピック委員会 (IOC)、日本政府、東京都などが開催を強行しようとする姿勢に疑問の声が上がった。

しかし、オリンピック関係者約 4 万人のうち、新型コロナウイルスで陽性反応が出たのは 1、28% で、選手 1 万 1656 人では 0、28% に留まった。オリンピック・パラリンピック開催が原因で日本の新型コロナウイルス感染が顕著に広がるという事態は避けられた。

オリンピック開催に関しては、IOC の金

▼マイラ・アギアール (女子柔道) [en.wikipedia.org]



権主義が批判を受け、「何のための、誰のための開催なのか」という声が上がった。

しかし、パラリンピックに関しては、日本選手が水泳、陸上、車いすテニス、マラソンなどの個人競技、さらには車いすラグビー、車いすバスケットボール、ゴールボールといった団体競技でも大健闘した。様々な障害を抱えた選手たちが知恵と努力で困難を克服する姿が感動を呼んだ。パラリンピックに関しては、「何のための開催なのか」という声は出なかったのではない。

オリンピックを開催する IOC とパラリンピック委員会 (IPC。会長はブラジル人のアンドリュー・パーキンス) は密接な関係にあり、オリンピックの経済的成功がパラリンピックの開催を可能としている側面がある。

改めて東京五輪の意義とは

2013 年 9 月、ブエノスアイレスの IOC 総会で東京 2020 の開催が決まった時、大会がこのような形で行なわれるとは誰も予想できなかった。

開催費用が当初の想定を大きく上回ったことに加え、開催が 1 年延期され、しかも基本的に無観客での開催となったこともあって、巨額の赤字が出た。IOC は赤字補填に関与しないので、今後、大会誘致に際して財政保証をした日本政府と東京都が、実質的には日本国民が赤字を負担することになる。

2024 年大会を開催するパリの市民、そして 2032 年大会の開催地に選ばれたブリスベンの市民の喜ぶ様子を見ながら、東京都民、そして日本国民は複雑な思いを抱かざるをえないのではない。

居酒屋でコロナと闘う



藤原 美明
(AILIM 代表取締役)

牛丼から居酒屋へ

「ブラジルで日本食の多店舗展開は可能か？」2013年3月、大手外食企業の駐在員として赴任した私が当初から取り組んでいる命題だ。赴任後5年間でサンパウロを中心に牛丼店の出店約20店舗に携わった。2018年自ら法人を立ち上げ独立。2019年3月 izakaya COCORO 1号店をオープンした。

いきなりぶつかったコロナ

今年の7月に2店舗目を出店したが、とにかく濃い2年半を過ごした。前職もまあ激務だったけれど、収入はサラリーマン時代から激減、住む場所も中心街からは離れ電車通勤した。医療保険にも入っていなかった。従業員は定着せず、オペレーションはガタガタ、お客様からお叱りを頂きながら疲れて帰るのを諦めてオープン当時はよく店舗で寝泊まりしていた。1年経ってようやく落ち着いてきたと思っていた矢先、コロナで営業ができなくなった。そして現在、弊社の歴史のその半分以上がコロナ禍である。

ピンチはチャンス

サンパウロがロックダウンされた2020年3月以降毎日どうやってこの難局を乗り切るか考え、思いついたことはすぐに実行した。メニューの改変、デリバリー対応、SNSはもちろんプログラミングを学習して店舗のホームページを自作、Youtube 動画の配信も始めた。

コロナがなかったらやらなかっただろうなと思うことをたくさんやった。実はブラジルで感染が拡大し始めた当初、知人を通じて日本のテレビ局から取材の依頼があった、「コロナで大変です」というコメントを撮りたかったようだが、私は今をチャンスだと捉えているのでそういうコメントは出来ないですよ、と伝えると結局取材は行われなかった。いかに日本のメディアが自分たちに都合のいいコメントを求めているかがわかる出来事だった。

ブラジルで BENTO がブレイク

コロナ禍のブラジルにおいてデリバリーで新たな市場を築いたのが BENTO である。その事実こそ日本で報道して欲しいと思う。

右の表は ifood というデリバリーアプリ内で顧客が店舗を評価した数を比較したもので、ここにあげたレストランは主に日本食や弁当を販売している。

表：ifood内評価実績と注文数の予測（2021年9月25日現在）

	3ヶ月間の評価数	予測注文数 (1日あたり)
Nara Obento	881	147
Espaço kazu	709	118
izakaya Matsu	598	100
Aizome	497	83
Hira Ramen izakaya	304	51
izakaya COCORO(実績)	253	42
washoi izakaya	204	34
Sukiya Sao joaquim	204	34
izakaya Toki	176	29
izakaya Kuroda by Ite tokyo	169	28

この評価の数は直近3ヶ月間のデータで常にアップデートされている。ここで、『評価する顧客の数 / 注文数』という数字を定義しこれがどのレストランでも一定と仮定すれば、私は自分の店の注文数実績がわかるのでここから各店の注文数を予測することができる。

上から3番目、競合店の izakaya Matsu は1年以上デリバリーだけの営業を続けてきた。逆に言うと店を開けなくても大丈夫ということだが、この数字を見ると納得である。同様の機能を持つアプリはあと2つある、さらに店頭でのテイクアウトも加えれば表の数字の3倍は売っていてもおかしくない。一日平均300食である。

BENTO の需要は今後も残る

多くの会社がコロナ後もホームオフィスが続けると公言しているが、コロナは我々の生活スタイルを一変させた。それは悪いことだけではなく、とりわけ出退勤にかかる時間の節約が生活にもたらす変化が大きかったと思う。同様に、デリバリーの選択は本来調理や買い物にかかる時間を節約できるので、例えばオフィス通勤片道1時間×2＝2時間、買い物＋調理＋後片付け＝1時間かかるとしたらホームオフィスとデリバリーというシステムの導入で合計1日3時間自由な時間が増えることになる。これだけあれば新しい趣味や勉強に使う時間としては十分だ。

そう考えるとホームオフィスがなくならないのと同じ原理でデリバリー需要も今後残り続けると考えて良いと思う。そんな中で弁当は一食あたり手頃な価格でバリエーションが楽しめる、といったピザやハンバーガーと同様の特性を持つため、ブラジルにおいてそれらの競合となり得ている。

日本食レストランを多店舗展開するには

ブラジルで出店を進める上で私が大事にしているポイントは以下のとおり

- 人材：**ブラジルの経営者が口を揃えて言う課題、良い人材の確保、社員教育システム、長く続けることができる社内の環境整備。
- 商圏を狭めることができる商品開発：**店舗数を増やすには商圏を狭める必要がある、それにはプライスレンジを中低価格帯に設定できる商品を選択しなければならない。ブラジルでそのような価格設定を満たしつつ、需要の伸びが期待できる商品開発ができるか。
- 商品クオリティのブレ幅縮小：**国民食のフェイジョアードですら、日によって塩分濃度や粘度がバラバラというのをブラジルではよく目の当たりにする。自国の国民食ですらこのような状態なので、他国の正解が分からないものを作ればブレが出るのは当たり前で、その幅をいかに小さくできるか。

コロナ禍から今度こそ脱却しつつあるブラジルで、日本食市場がどのように成長していくのか今後に注視したい、そしてその成長の中心にいたいと考えている。

Sumitomo Rubber do Brasil
10年の格闘

脇谷 宜典
(Sumitomo Rubber do Brasil Ltda.
社長)

住友ゴムと
Sumitomo Rubber do Brasil について

住友ゴムは主にダンロップブランドのタイヤを製造・販売しており、ブラジルでは2011年に現地法人 Sumitomo Rubber do Brasil を設立、2013年に工場稼働を開始した。

本社・工場はパラナ州ファゼンダリオグランデ市に位置し、ブラジルをはじめ中南米市場へタイヤを供給している。乗用車用タイヤに加え、2019年からはトラック・バス用タイヤも生産を開始した。



進出地をパラナ州と決定するにあたっては、サンパウロに近く経済・産業が発展していること、パラナ州が兵庫県（住友ゴムの本社は兵庫県神戸市）と姉妹提携しているため有形無形の様々な支援を受けられること、また、サンパウロ州に次いで多数の日系人が居住しており、日系企業にとって事業運営しやすい環境にあること、等を勧告した。

弊社がブラジルに進出してまだ10年とはいえ、その間に様々な事態を経験し、格闘してきた。ここではその一端を、治安面とビジネスリスクを中心にお話したい。

治安面での格闘

治安面はやはり皆が気にするところではなかろうか。不安を煽るのは本意ではないが、話のネタにいくつか紹介したい。

<武装強盗団襲撃事件>

深夜、工場に武装強盗団がやってきた。自動小銃で武装する彼らには守衛も抵抗できず、なすがまま敷地内に侵入を許す。ところが、武装強盗団は工場内を一周したものの何も盗らずに撤収していった。どうやら工場内にATMがあると誤解して侵入したが、実際にはなかったため成果なしで撤収することとなった模様。以来、工場内にATMを設置してはならないと固く戒められている。

<通勤車両レンガ事件>

トラブル対応のため深夜に工場へ駆けつけ、駐在員が運転する乗用車で帰宅する途中、路上に不審者が現れ、突然レンガを投げつけられた。警戒していたため、窓ガラスが割れても減速せず通過し事なきを得たが、やはり深夜のドライブは危険と再認識した事件だった。

<ドローン偵察事件>

正体不明のドローンが連夜、工場上空を飛行することがあった。警察に相談し、現れる度に地上から追跡し、警戒していることを示した。「襲撃の下見か？」と緊張したが、今に至るまで事件は起こらず、何だったのかと不思議に思っている。

このほか、街で駐在員が犯罪に遭遇するケースもあり、注意が必要なのは確かだ。だが、過度に恐れるのではなく、平生から行動に注意を払って適切にリスクに対処することが肝要かと考えている。

ビジネスリスクとの格闘

弊社が進出を決定した当時のブラジルはサッカーワールドカップの開催を決め、所謂 BRICS の一角として熱い期待を背負っていた。ところが進出直後から経済発展は頭打ちとなって経済は低迷し、弊社の事業計画も見直しを余儀なくされた。聞けば過去から経済浮沈を繰り返し、その波を乗り越えられた企業だけがこの地で長く根を張っておられるとのこと。

弊社も進出以来、多くの荒波に晒されてきた。

2015年から2016年にかけては急激なレアル安進行に対し、まだ輸入品の比率が高かった弊社は対応しきれず、見る見るうちに赤字を積み上げてしまった。本社に緊急資金援助を仰いでどうにか凌いだものの、一時は事業継続が危ぶまれるほどの危機だった。

2018年にはブラジル全土でトラックドライバーのストライキが発生し、工場稼働停止、スタッフの出勤もままならないなか、自宅待機したまま毎日テレビ会議で対策を協議した。

そして2020年にはコロナの流行で三度にわたり工場稼働を停止した。幸い、現在は需要も回復し、従業員の感染予防策を整備したうえでフル稼働しているが、断続的に感染者が発生するなど、対応に追われている。

何度も訪れる危機は、かえって従業員の結束を固め、危機感からか会社経営への理解を促進し、結果的に弊社の企業体質を強化することにつながったと思う。事業環境も弊社に幸いした。コロナ禍と同時に進行したレアル安はコスト上昇を招きもしたが、ライバルの輸入タイヤの価格競争力をも奪う結果となり、シェアを伸ばすことができた。2020年8月以降はフル生産が続いている。

追い風に的確に乗れたことも大きい。コロナ禍発生直後から毎日、危機管理委員会を開催してナショナルスタッフ幹部を含めた全員で情報共有・対策検討を行い、素早くきめ細かく環境変化に対応してきた。

この例を考えるにつけても、ブラジル人をいかに経営参画させるかが成功の鍵だと思う。

進出当初は文化の違いを互いに理解しきれず、組織も未熟だったために齟齬もあったが、一つ一つ乗り越えてきた。情報や意思決定の壁を作らないこと、ガラスの天井を作らないことを心掛け、現在は良い関係を築けていると感じている。

地域との関係では、ファゼンダリオグランデ市から、市の発展に貢献してきたとして、名誉賞を受賞する栄誉に浴した。

また、この度、2025年までに生産能力を約30%増やす設備投資を決定した。会社設立10年の節目を迎えて、ますます元気に成長し、いかなる荒波も乗り越えていく所存である。



ブラジルにおける 飲食店開業に関する法制度

1. 飲食店の開業

新型コロナウイルスにより最も影響を受けている業態の一つが飲食業であるが、ラーメンや寿司などの日本食はブラジルでも大変人気があり、日本食レストランの需要はまだまだ拡大していくものと思われる。そこで、本稿では、ブラジルで飲食店を開業したい方に向けて、ブラジルで実際に飲食店を営んでいる倉智氏の経験談を交えて、飲食店の開業に関する法制度の概要を説明する。

2. 法人設立、税務署への届出

日本の場合は、個人事業主という形で別途法人を設立しなくても事業を行うことができる。一方、ブラジルでは、法人格を取得しないと従業員を正式に雇用できず、また、請求書も発行できない。そのため、正式に事業を行うためには法人を設立する必要がある。法人については、いくつかの形態があり、それぞれメリット・デメリットがあるが、たとえば、小規模でまずは事業を開始したいような場合は、小規模事業者が利用できる Microempreendedor Individual (MEI) という形態がある。法人の設立申請も税務署への届出（税務番号の取得）もオンラインで可能である。

3. 必要な許可等

日本の場合、飲食店を開業するためには、食品衛生責任者の資格の取得や保健所から飲食店営業許可を取得するなどの手続が必要であるが、ブラジルでも同様の制度がある。開店する州や市によって異なるが、たとえば、サンパウロ市では、主に、営業許可書 (Alvará de Funcionamento)、消防検査格証 (AVCB) 及びサンパウロ市衛生情報システム (SIVISA) による認証の3つが必要となる。営業許可書は州と市の2つの衛生局から許可書を取る必要があり、申請項目の多さと、認可までに多くの時間を要するため、飲食店業界では問題視されている。消防検査格証は、火災に対して安全対策が行われていることを確認するもので、軍警消防署が飲食店ごとに発行する。サンパウロ市衛生情報システムは、サンパウロ市の公衆衛生にリスクを及ぼし得る製品についての認証であり、ブラジル国家衛生監督庁 (ANVISA) と同じ役割を市レベルで実施するもので、食品など低リスクの製品は SIVISA の管轄となる。

4. 従業員の雇用

日本の場合、飲食店の従業員の多くはアルバイトなどの非正規従業員であることが多いが、ブラジルの場合、アルバイト店員はあまり一般的ではない。2017年の労働法改正により、ブラジルにおいても、日本のアルバイト形態と



柏 健吾
(TMI 総合法律事務所日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)



倉智隆昌
(BBBR 株式会社 CEO
ブラジルで豚骨ラーメン店
「一幸舎」を運営)

同様に、時間、日、月単位で契約される断続的労働 (trabalho intermitente) という形態が新設されたが、倉智氏によれば、飲食店で同形態が利用されることは少ないとのことである。その理由として、断続的労働という形態においても、交通費や食事手当をはじめ、有給休暇、13ヶ月目給料、国民年金、失業保険等の社会保障の支払いが義務となるので、4時間勤務の人材を2人雇用するよりも、8時間勤務の正規雇用の人材を1人雇用する方が、企業側として労務手続きに負担がないことが挙げられる。また、企業側は、3日前までに勤務時間を指定して従業員を呼び出さなければいけないため、勤務シフトに対して柔軟性が乏しいことも理由に挙げられる。そのため、一般的には、すべての従業員を正社員の形で雇用している会社が多いが、小規模で営んでいる飲食店などは非正規で雇用していることも多い。

また、ブラジルでは従業員の賃金の設定も非常に難しい点である。最低賃金は州や業態、労働組合との合意により異なるし、賃金は労働組合との合意に基づき毎年上げなくてはならない。倉智氏によれば、役職やどれくらい職務経験があるかで金額が変わってくるので賃金の設定には非常に苦労するとのことである。

5. フランチャイズ

仮に自社の飲食店が成功した場合、事業をさらに拡大させる方法の一つとしてフランチャイズがある。フランチャイズに關してのルールは、フランチャイズ法 (2019年法 13,966号) に規定されている。ただし、同法は、それほど多くのルールは規定されておらず、基本的には、フランチャイザーとフランチャイジーが自由に契約内容を決定できる。フランチャイズを行うにあたり重要となるのは、フランチャイザーが、フランチャイズ契約を締結する前に、事前に、フランチャイズの概要をフランチャイジーに提示することである。具体的には、フランチャイズの募集要項において、フランチャイザーの会社情報、フランチャイザーの財務情報、フランチャイズの詳細な説明、フランチャイジーの負担見積額 (初期投資額、フランチャイズフィーなど)、独占権の有無、フランチャイザーがフランチャイジーに提供するサービスや物の内容、契約終了後のフランチャイジーの義務 (競業避止義務など)、フランチャイズ契約のひな形、契約違反時の違約金、契約期間、契約の更新権などを記載する必要がある。

なお、外国法人がフランチャイザーの場合、ブラジル法人であるフランチャイジーがフランチャイズフィーをフランチャイザーに送金 (海外送金) する場合、ブラジルの産業財産庁 (INPI) へのフランチャイズ契約の登録とブラジル中央銀行への登録が必要となる。

ブラジル国税庁(Receita Federal) 2021年税務調査計画 今後の焦点項目



ペドロ・アンデルス
(KPMG
サンパウロ タックス
パートナー)



三上智大
(KPMG
サンパウロ事務所
マネージャー)



天野義仁
(KPMG
ジャパン
南米統括責任者)

ブラジルでは多くの企業が税務調査に対して不安を持っているが、税務当局の調査重点項目等を把握しておくことは、将来税務調査において指摘されるリスクを軽減する上で役立つといえる。税務当局は毎年、年次税務計画調査報告書を公表しており、今年は2021年7月1日に公表されているため、今回はその内容について簡単に説明したい。

2020年税務調査結果の概要

2020年のブラジル国税庁の税務調査結果は、Covid-19による納税者への保護措置として、6ヶ月間、税務当局から要求された通知への対応や書類の提出をする義務がなかったことの影響を受けている。実際、2020年のブラジル国税庁の税務調査による徴税額は、2019年と比較して約14%減少した。それにもかかわらず、税務当局は税務調査手続きの効率性を高めており、税務調査1件あたりのブラジル国税庁による平均徴税額は、約1,800万レアルから2,300万レアルへと27.6%増加している。

また、ブラジル国税庁のシステムで利用可能なデータの有効活用が、税務調査の重要な要素となっており、2020年の税務調査の成功率 (課税対象となった税務調査) は91.62% (前年91.55%) と引き続き高い水準を維持している。税務当局はテクノロジーを活用して異なるソースからの情報をクロスチェックし、多くの場合、課税対象となる可能性のある不整合を特定しており、税務当局による指摘がより的確になっている。さらに、税務当局は、調査官のトレーニングと専門化に投資しており、税務調査の対象となる納税者の選定もより効果的に行っている。

ブラジル国税庁はここ数年、大規模納税者を監視するプログラムを確立してきた。これは、大規模納税者の徴収額が連邦税の総徴収額に大きな影響を与えるためである。大規模納税者は納税者総数の0.01%に過ぎないが、その徴税額は2020年の連邦税収の60%を占めている。

モニタリングの過程では、毎月の徴税における変動や歪みの分析、納税者のセクターの分析、経済グループの分析などが行われている。

2021年税務調査計画及び指針

ブラジル国税庁の2021年税務調査計画は、例年通り、税務当局が税務調査対象企業を適切に選択し、税務調査時に、より関連性の高いトピックに焦点を当てることができるよ

う、絶えず開発及び改良されている技術によって支えられている。

また、国際条約により、ブラジル国税庁は、ブラジルの税法が適用される可能性のある海外の銀行口座から財務情報を収集・受信することができる。CRS (Common Report Standard) は、ブラジルが情報を受け取ることを可能にする多国間条約であり、いわゆるタックス・ヘイブン地域に存在する数十万件の銀行口座が対象となる。同じ分野では、FATCA (外国口座税務コンプライアンス法) により、米国に存在する何千もの銀行口座へのアクセスが認められている。さらに、現地の多国籍企業がブラジル国税庁に提出する必要のある国別報告書は、当該多国籍企業とブラジルにおける潜在的な税の影響に関する情報を提供する。

特に重点を置く項目

税務調査計画では、いくつかの特定のテーマが税務当局の焦点となることも決められている。

その一例として、規範的命 1,888/2019 に従ってブラジル国税庁に報告しなければならない暗号通貨の取引を含む、国際取引を伴う脱税スキームを特定するための新しいツールの開発が挙げられている。このような技術は、国際条約によって95カ国から受け取った情報を分析するために使用される。

税務調査計画で重点項目として示されているもう一つの項目は、税務上の資産の償却を伴う企業再編を含む、タックスプランニングである。この種の取引は、ここ数年、議論や税務訴訟の対象となっており、法理論も形成されている。しかし、税務当局は、徴税を減らす目的で人為的なれんを発生させる企業再編取引がいまだに行われているとして、特に注意が必要だと考えている。そのため、税法を遵守していないのれんの償却や、当該取引におけるキャピタルゲインの非課税を確認することが目的となる。

年次調査計画はブラジル国税庁がどのような枠組みにおいて行動するかを決める青写真である。当寄稿では一部しか記載出来ないが、ここで紹介したようなブラジル国税庁の動向等を把握することにより、ブラジルの税法を遵守し、将来の税務リスクを低減させる上で役立つことを願っている。

参照: https://www.gov.br/receita-federal/pt-br/aceso-a-informacao/dados-abertos/resultados/fiscalizacao/arquivos-e-imagens/relatorio-anual-de-fiscalizacao_sufis_2021_07_01_vfinal-1.pdf

教え教わり一期一会(前篇) コロナ禍で深まるブラジルとの絆



KTa ☆ brasil(ケイタブラジル)
(打楽器奏者、DJ、MC)

2019年末、「ノッティングヒルのカーニバル」で知られるロンドンの老舗エスコラ・デ・サンバ: London School of Sambaで私は8年ぶりに、打楽器とリズム体系の指導を地元英国人はじめ各国籍メンバー〜在ロンドンのブラジル人メンバーたちに行った。ご好評をいただき、旧知の英国人の老代表は、2020年秋に再招集を約束してくださったが、この数ヶ月後に、新型コロナ・ウイルスを患い、帰らぬ人となってしまった。リオで活動を始め24年。ブラジル各地〜世界各地にサンバを通じた友人や知人、生徒が沢山出来たが、新型コロナウイルスの犠牲者となった人が少なくない。

1997年より、私はサンバの本場リオでの活動を開始した。1998年には日伯90周年記念と、リオの名門Mangureiraの70周年記念との共同公式事業に参加。今年コロナ禍で亡くなったNelson Sargento氏を始め、Cartolaの未亡人Tia Zicaやお姉様Dona Neumaの家に招かれる他、晩年の創立者たちと出会った。様々なレクチャーを受け修了証を得るとともに、後年に続くバトンを日本に渡した。2001年にはサンパウロの名門VAI-VAIの打楽器隊で活動。そしてカルナヴァルに限らないサンバとジョンゴの殿堂であり、ブラジル音楽界で知られる名曲名手の輩出で知られる歴史的名門、リオのImpério Serranoに入団。パレードの採点対象である打楽器隊で活動した。以来20年の年月、彼らとその本拠地コミュニティと関わり活動させていた。受賞、選抜ショウメンパーを経て、史上外国人初となる公式指導者証と門外不出の団旗を拝受し、公式日本支部代表に任命いただいた。本場リオで20年以上活動し習得したノウハウはもとより、ブラジル人には無い細やかさ、外国人目線の客観的な指導がブラジルや第三国で好評をいただいている。

上記ロンドンから数週間後の2020年初頭、今度は任務の傍でバイア州の内陸北端「セルタンの中心」に位置するジュアゼイロ市にあるファヴェーラの慈善学校に私はいた。音楽の授業で子供たちにバイアとリオのサンバのリズムの相違を教え、リズムを共有すると、すっかり打ち解けた。一方、サンフランシスコ河の対岸、ペルナンブーコ州ペトロリーナ市のマラカトゥ・ナサオンのグループでは数ヶ月間、そのリズムを現地メンバーたちから学び、打楽器メンバーとしてのユニフォームを授かった。正しい技術や情熱は大切だ。しかし、音楽や楽器の種類とリズムなどが違えども、メンバーたちとの人間関係を築き、彼らと交わすコミュニケーションこそが、結果的に音を共に作り出す事に繋がっている事が、最も大切かつ醍醐味である事はエスコラ・デ・サンバと同じであることを確認した。共にマラカトゥーのリズムを叩いたメンバーの一人が今年、コロナ禍で他界した。

その後2月末のリオのカルナヴァルのメインパレードリーグでは例年通り、長年務める公式カメラマンや日本メディア(昨年はNHKの生放送、サイゾー、ハーバービジネス、Yahoo! ニュース他)のレポーターを務めるとともに、恒例の採点対象の打楽器奏者として出場した。国民的名曲「É Hoje」や「O amanhã」他で知られるUnião da Ilhaの打楽器隊260名の中央列でのテンポキープ役を再び任された。責任は至福であるとともに、長年リオでやり続けて「まじめで、工夫し、責任感が強い」と信頼される日本人性を買われてしまっている事、そして10代から憧れてきた本場の名門打楽器隊の重要役を外国人である自分が務め、チームを盛り上げている事に我ながら違和感を感じたが、本番も最後まで途切れる事なく叩き続けた。長年小生もお世話になってきた同ILHAの会長兼、サンバリーグ協会LIESAの役員も務めてきた方が今年コロナ禍で他界された。2022年のカルナヴァルに向けてのリハーサルが既に始まり、招集されているが、リオへ戻る仕事の見通しが立っていない。

本場リオで「外国人最長キャリアの打楽器奏者」と言われ、20年参加するImpério Serranoではすっかり古株だ。20年前に私に指導してくださった歴史的名手たちは次々に鬼籍に入られた。世界各地〜日本でもCDがリリースされてきた長老名手会Velha Guarda Show do Império Serranoのメンバーに招集され活動し、早7年が過ぎた。残念な事に同メンバーの一人も、コロナ禍で他界した。昨年のカルナヴァルでは打楽器隊のサポート役に徹した。私が入隊した20年前には生まれていなかったか、幼少であった若手のサポートや指導をする側になった。インペリオの打楽器隊は他に比べて複雑で難しい、独自の打楽器アンサンブルパターンで知られるが、それが廃らない様にきちんと指導、伝統を守る側となった。外国人である私に言われる事は、本場の彼らのプライドを刺激し、効果があると言われる。早くも20歳ほど年下の後輩たちが打楽器隊やエスコラの各リーダー役に就き始めている。

カルナヴァルが明けると、リオ移住のための仕事が白紙となる憂き目に遭い、失意のうちに帰国を余儀なくされた。未だブラジル帰還を模索し、仕事を探している状態だ。そんな中、ブラジル各地での活動のご縁から、ネット生中継番組や動画を通じたオファーが続いている。(次回、後編に続く)

ケイタブラジル公式サイト <https://keita-brasil.themedia.jp/>

▶ 2021年 JICA「なごや地球ひろば」にて Viver! と命名した展示(写真・動画・文章パネル)と登壇を行なった



東京オリパラで出会ったブラジル人選手

今井真澄
(独)国際交流基金日本語第1事業部)

子供のころに初めてブラジルの大地を踏んでから40年以上、最後に暮らしてから20年以上が経つ。以来ずっと気になっていたけれどそう簡単には戻れない。ブラジル人が多く日本に暮らし、ネットやSNSもあり、日本にいてもブラジルはずっと身近になった。そう自分に言い聞かせていた私に、今年のTOKYO2020は新鮮かつ懐かしい刺激だった。

ブラジル選手団は、コロナ禍でもオリンピック300人、パラリンピック200人規模を派遣する一大勢力で、ボランティアとして通った選手村ではまずその存在感に圧倒された。メダルランキングでもオリンピック12位、パラリンピックは日本より上の7位の戦績で、行き交う選手はみな自信に満ち溢れていた。サンパウロ駐在時にテレビで観た2000年シドニー大会とはメダル獲得数も注目度も全然違う。これがオリンピックホストを経験した国の姿なのかとひたすら眩しかった。

そんなある日、競技を終えた選手がオリンピックスタジアムから選手村に向かう専用バスで偶然ブラジル人選手の隣に座った。左足は膝から下が義足だ。私自身はアンゴラ選手団の担当で、別の種目に出場したアンゴラ人選手に随行していた。彼は個人ベストの記録を出したが、出場12人中11位の結果に大

変落ち込み、団長、コーチも結果に満足しなかった。選手のレース運びに対する批判、国に報告できないといったボヤキ等で冷たい空気が流れ、私も選手にどう声をかけてよいやら戸惑ったままだった。

ところが隣の彼女は全然違った。今日がパラリンピック出場初種目で、スタート前は心臓が口から飛び出しそうだったが出場10人中8位、ブラジル新記録という成績が出せてとても満足している、バイク事故で左足を失ったが、車いすマラソンに出会い、選手として駆け出しの時期に観たリオ大会の時から東京に行くことを夢見て頑張ってきた、と、約30分の乗車時間中、満面の笑みで語り続ける。近くに座ったコーチも彼女の様子を満足気に見守っている。そうそう、ブラジル人ってこんな風にポジティブに物事をとらえる人たちだった。それが集まってパワーを発揮している。彼らと接して私も自然に心が開き、バスを降りる頃にはすっかり前向きな気持ちになっていた。

報道やネットで接するブラジルの様子は政治、経済、コロナ、どれも決して明るくない。でもそんなことを帳消しにするくらい引き込まれる瞬間が、魅力が、ブラジルにはある。ああ、またいつか必ずブラジルに行こう。

ジャーナリストの旅路

学んだ教訓は…

4年間のサンパウロ勤務を終え、10月の異動で日本へ帰国した。新しい職場で仕事を始めたばかりだが、気がかりではないことがある。自宅兼支局としてサンパウロで借りていたマンションの退去手続きが進んでいないのだ。

後任への名義変更も考えたが、退去したほうが安く済み、手間もかからないと助言を受け、引き払うと決めた。ブラジルでは一般企業や役所とのやりとりが遅々として進まない場合がある。任期の最後ぐらいいは大きなトラブルを抱えず、スムーズに帰国したいと考え、早めの準備を心がけた。

帰国が確定した7月初旬、さっそく不動産会社に退去を通告し、連絡を密にした。室内の原状回復の修繕にあたる業者を早めに探し、見積もりを出してもらった。引っ越し荷物の搬出が済んだ9月10日、業者が修繕を始め、20日ごろに終わらせる段取りを組んだ。月内に支払いも完了すると見込んでいた。私は後顧の憂いなく帰国し、新任地に赴くはずだった。

ところが、不動産会社は帰国直前になって突然、修繕の計画を変えろと言ってきた。実際に連絡を取ってきた支局助手は「これまでに合意した話と全く違う。ちゃぶ台をひっ

くり返された」と怒りを爆発させた。どうやら不動産会社はこちらで手配した業者の見積もりや修繕内容が気に入らなかったらしい。不動産会社が指名した業者が見積もりを取り直した。

その後、手続きはストップ状態だ。9月いっぱいの手続き完了はおろか、10月に入った今も修繕は始まらず、どちら側の業者が担当するか、いくらかかるかも分からない。契約時に支払った保証金から修繕費用を差し引いた残金が返ってくるが、もちろん細かい支払い方法も決まっていな。こちらが当初の計画通りの修繕を求めても聞き入れないし、今後の予定や支払い方法を何度尋ねてもまともに答えない。

あまりの理不尽さに腹が立ってしょうがないが、ボールは不動産会社の手の中にある。結局、相手のペースで物事が進むのを気長に待つしかないのだ。そして、結果は案外、悪くなかったりする。これが4年間のブラジル駐在で学んだ最も大切な教訓かもしれない。帰国から2週間余りがすぎ、日本ではどんなことでも物事が滞りなく進むと感じる。ブラジルではよく起こる混乱をどことなく懐かしそう帰国者は私だけだろうか。

山本太一
(毎日新聞 前サンパウロ支局長)

北海道からサンパウロへ 気鋭の社会派ミステリー作家の 最新作『灼熱』を読む

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）



9月24日、終戦直後の在伯日系社会で勃発した「勝ち負け」抗争を題材とした、骨太の歴史ミステリー小説といえる長編が刊行された。葉真中頭『灼熱』（新潮社）である。事前にこの発売日をつかんでいた筆者は、行きつけの本屋に直行し、文芸書新刊コーナーに平積みされていた分厚い一冊（688頁！）を購入、その日の夜中には読了してしまった。ストーリー展開がドラマチックで夢中になって読み進んだからだ。この葉真中頭という作家のにわかファンになった筆者は彼の別の作品を読んでみたくなって翌日、文庫版の『凍てつく太陽』を購入することに。こちらも分厚いミステリー小説（669頁！）だが、1940年代の北海道を舞台に展開される、いささか荒唐無稽にしてエンタメ要素もたっぷりの物語絵巻の世界に没入することになってしまった。というわけで、立て続けに合計1,300ページ以上の2冊の小説を読んで、久しぶりにコーファン状態に陥ったので、今回は、このミステリー作家に焦点をあてて、メモを重ねてみたい。

『凍てつく太陽』（幻冬舎文庫）

2018年に刊行され、大藪春彦賞＆日本推理作家協会賞をダブル受賞した作品だ。舞台は1940年代半ばの北海道、主人公の日崎八尋は、警察官で日本人とアイヌのハーフという設定だ。警察官のなかでも国家秩序（国体）の維持を至上目的とする特高の刑事で、そんな彼が軍需関連産業で急成長した室蘭市の飯場「伊藤組」へ人夫として潜入し、大日本帝国に歯向かう朝鮮人不安分子を監視する任務（潜入調査）を遂行していくが、錯綜的トラブルに巻き込まれてしまう。登場人物は、特高警察、憲兵隊に、アイヌあり、朝鮮人あり、だが、主人公は冤罪で逮捕され、網走刑務所に投獄される。拷問され地獄を見ることになるが、なんと脱獄に成功。山中を逃走中にはヒグマとの死闘もあり、そんな映画のようなストーリー展開のなかには連続毒殺事件の犯人「スルク」の謎解きがからみ、さらには陸軍が隠していた軍事秘密の実態が明らかになっていく。こんなエンタメ要素もたっぷりのミステリー小説の行間に作者はアイヌ民族否定論への憤りを忍ばせている。

日本推理作家協会賞を受賞した時の作家の「受賞の言葉」のさわりの部分を引用すると、

「本作では、70年以上前の北海道のことを語りつつ、読者が行間に普遍性と現代性を読み取れるものにしようと、筆を振るったつもりです。」となっているが、この考え方が、実は、次作品である『灼熱』の作品世界にも通底している

のだ。作品舞台が北海道からブラジルへ変わったが、作者が読者に訴えたいのは「普遍性と現代性」であると読めるからだ。

『灼熱』の構成

沖縄出身で親族の構成家族の一員として1934年にブラジルに渡った勇少年が、サンパウロ州内陸部に位置する架空の日系殖民地「弥栄村」で、同い年の日系二世のトキオと出会う。親友となった二人は、10余年後、それぞれ「勝ち組」（信念派）と「負け組」（認識派）に分かれることに。この対立劇がミステリー仕立てのストーリー展開となって読者は惹き込まれることになる。実際の史実に基づくフィクション作品だが、最終章で、老婆となった里子（勇の妻）が回顧するシーンはなんと切ない。

『灼熱』の構想から現地取材へ

作者が、終戦直後の在伯日系社会における「勝ち組負け組」抗争について知ることになったのは、2016年8月のラジオ番組を聞いたからだ。「日本は戦争に勝った」とのフェイクニュースを信じたのが日系社会の圧倒的多数（8割以上）であったとの話に強烈な関心を抱いたことから、「勝ち負け抗争」関連の文献資料、さらにはブラジル日本移民史に関する文献を片端から調べ、読み進んでいった由だ。この過程で、この史実に基づくミステリー小説の構想を練り始め、2019年にはブラジルでの現地取材を行っている。

サンパウロ市内ばかりでなくサンパウロ州内陸部ノロエステ地方のかつて「勝ち組」運動が活発であった都市を訪ね、事件の当事者家族と会っているが、なによりもジャーナリストの外山脩氏（『ブラジル日系社会 百年の水流』の著者）やニッケイ新聞の深沢正雪編集長（『「勝ち組」異聞—ブラジル日系移民の戦後70年』の著者）が関係者の紹介から歴史的背景の説明まで全面的にサポートしたおかげで、作者の史実への理解が深まったといえよう。さらにはサンパウロ人文研の高山儀子氏や細川多美子氏からも多くの知見を得たというから、実に精力的な現地取材であったことはまちがいない。

巻末に掲げられている50冊以上の参考文献リストは、壮観であるが、醍醐麻沙夫氏が大変な努力の結果構築され、160冊以上が収録されている無料デジタルサイト「ブラジル移民文庫」（<http://www.brasiliminbunko.com.br/>）をもきちんと目を通して作者の真摯な姿勢には脱帽するばかりだ。

日伯サステイナビリティフォーラム2021 報告 日伯関係の転換はいかにして可能か

倉内ひかり
（東京外国語大学 国際社会学部3年）

私は8月から9月にかけて、オンラインで日本とブラジルの学生を対象とした学生会議「日伯サステイナビリティフォーラム」を開催した。本企画は、発案後、東京外国語大学の「多文化共生学生自主企画」として採択され、大学の後援のもと行うことになった。このキャンパスコラムでは、この企画の概要や催行にあたり直面した課題や学んだことを報告する。

まず、私が大学の同級生と企画したこの「日伯サステイナビリティフォーラム」は、日伯の学生を対象に、SDGsに取り組む日伯企業・団体のワークショップと議論・グループワークを通して「サステナブルな社会づくり」について考える学生会議である。

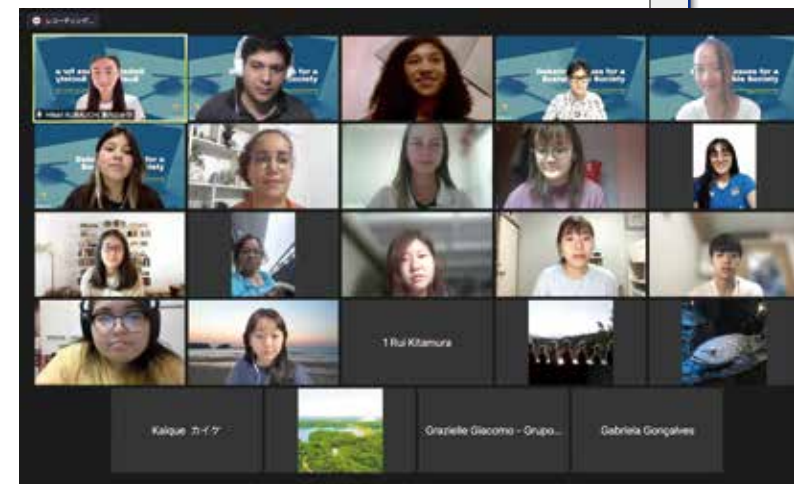
この企画を発案したのは私と私の同級生である外山である。一つ目は、外山がポルトガル語を学ぶ学生による学生団体の代表として活動する中で感じたブラジルは「助けてあげる対象」という日本の企業や世間の考えである。ここから彼は日伯関係をこのような「援助の対象」から「相互補完する仲間」に転換したいと考えるようになった。二つ目は、私がブラジルの貧困コミュニティを支援する団体にボランティアをしたことである。ここでは、実際にファベラで生活をしながら活動することで、普段自分が必要以上にものを消費しているということや、資源の分配の不均衡性に気づいた。ここから私は持続可能な社会づくりの必要性や私たちの認識の欠如に問題意識を抱くようになった。このようなことがきっかけで、私たちは今回の日伯サステイナビリティフォーラムを考えるようになったのである。テーマは一番身近な「廃棄物問題」に絞り、これに関わる会社をブラジルからは三社、日本から二社招致した。

第1回目には、オープニング講義としてブラジリア連邦大学でタバコの吸い殻を再生紙に変える技術で特許を取得したテレゼ・ホフマン・ガッティ教授を招待した。彼女はブラジルにおける吸殻のゴミが多いこと、また違法タバコなど無駄になってしまうタバコが多いことから、吸い殻をリサイクルすることで廃棄物の削減を目指し、服役していた人々にも技術を共有することで社会包摂にも取り組んでいる。その後の日伯学生間での議論では、このような取り組みを知らなかった学生や、未だに多くの吸い殻が捨てられているのを日常的に目にする、といったブラジル側の学生の意見が目立ち、活動の普及に課題があると感じた。

第2回目には、ブラジルからリオのコロコバード像やイグアスの滝などがある国立公園を管理しているエコツーリズム会社や排水処理の会社を招待した。ここでは、特に公園の訪問者にどのようにしてゴミの分別を促すか、という問題が提起され、子供を対象にした清掃員のコスプレやゴミ箱のデコレーションなどのアイデ

アが上がった。第3回目には、日本から海洋ゴミ調査や路上ゴミ集めのアプリ開発に取り組む企業や産業廃棄物会社を招待した。ここでは前週に続き会社としてゴミに対する消費者行動をどのように促すのか、また環境問題にビジネスとして取り組む上での課題などに焦点が当たった。

第4回目には、包括的な議論をするため、集まった学生たちで各自が抱えている問題意識やこれからの未来像などを共有し合った。多くの学生から共通して提起された問題意識は、私たち消費者がいかに環境問題を自分ごととして捉え、その意識から行動を変えていくことができるのか、という点であった。日本に来たことがあるブラジル人学生からは、団地などでゴミの分別を促す



管理人の存在によりゴミの分別を行うようになったという意見や、日本人学生からは親や学校からゴミの分別方法を学びゴミの分別が自然と習慣づくようになったという意見が上がった。一方で、ブラジルでは個人がゴミの分別をしても、自治体が地域のごみ分別に取り組んでいないこともあるため地方政府の組織的なスキームが必要だという意見も上がった。

このイベントを通して、オンライン上の集客やコロナ禍で実践的なことを行うのが難しいというような様々な課題に直面したが、学生同士がお互いの国の取り組みから学ぼうという姿勢はこれからさらに重要になると感じた。大学の開発経済や企業のブラジル進出などの文脈におけるブラジルは、我々が解決策を提示する「支援の対象」であり開拓の余地がある「市場」として語られることが多い。これから地球規模の問題に取り組んでいくにあたり従来のこのような見方には限界があり、お互いが抱えている問題を認識しながら学び合って解決策を導き出す必要があるからである。

新刊書紹介



◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『灼熱』（葉真中顕著）

終戦直後の在伯日系社会を揺るがせた「勝ち組負け組」抗争を題材としたフィクション作品。社会派ミステリー作家が精力的な現地取材を行い、膨大な関連資料・文献を読み込んだうえで構想・執筆した小説だが、時代考証もしっかりしている。架空の日系殖民地「弥栄村」を舞台として日本人移民一世二世たちが錯綜的に対立していく過程のストーリー展開はエンタメ的要素もあって読者を惹き込んでいく。この作家の圧倒的な筆力には脱帽だ。

（新潮社 2021年9月 672頁 税込み2,860円）

『女たちのラテンアメリカ（上巻）』（伊藤滋子著）

『ラテンアメリカ時報』に2006年から長期連載されてきた「歴史の中の女たち」シリーズで取り上げられた女性43名のうちの21名が収録されている。プ

ラジルからは18世紀ミナスで活躍した元女奴隷のシカ・ダ・シルヴァが選ばれているが、金鉱とダイヤモンドが発見され、一躍ブラジル経済の中核となった歴史的背景も書き込まれている。ラテンアメリカ各国の歴史づくりにコミットしていた女たちは、皆それぞれに魅力とナゾに満ちている。

（五月書房新社 2021年9月 336頁 税込み2,530円）

『中華料理の世界史』（岩間一弘著）

中華料理が世界中に広まってきた経緯を調査・研究した成果を叙述している著書としては、突出して面白い作品になっている。学術書的な一般書であるが、通時的な視点と共時的な視点が見事に融合しており、世界展開の事例として、米国、英国、アジア諸国に加え、ペルーやブラジルにおける中華料理の歴史もかなり詳しく記載されている。国家間の政治的な対立を超越してグローバルに展開してきた中華料理パワーはスゴイというしかない。

（慶應大学出版会 2021年9月 656頁 税込み2,750円）

『エリック・ホブスボーム 歴史の中の人生』（上下）（R・エヴァンス著、木畑洋一他訳）

歴史学者ホブスボームの詳細極まりな

い評伝。彼はラテンアメリカとりわけブラジルに強い関心を持ち続けたが、社会学者F・H・カルドゾ（元大統領）との親交は有名だ。彼の著作『資本の時代』、『20世紀の時代』などが商業的に一番成功（20万部以上）したのがブラジル市場、といったブラジル関連情報も本書のあちこちに記録されている。ちなみに本書のポルトガル語訳は6月に刊行され、ブラジルの主要紙誌が詳しい書評を掲載していた。

（岩波書店 2021年7月 上283頁 下320頁 上下共税込み5,830円）

『解放しない人びと、解放されない人びと 奴隷廃止の世界史』（鈴木英明著）

序章「奴隷廃止という世界史的共通体験」から終章「奴隷廃止は人類に何をもたらしたのだろうか？」まで、奴隷交易の始まりから奴隷制廃止までの長い歴史をグローバル・ヒストリーの視点から解釈し直した著書。ハイチ革命のインパクトでキューバやブラジルの奴隷需要が創出されたが、世界史上最大の奴隷輸入国にして、最も遅れて奴隷制を廃止したブラジルの歴史をグローバルな視点から再考するためにも、本書は極めて有益な歴史書といえる。

（東京大学出版会 2020年10月 304頁 税込み3,190円）

!!「ブラジルあれこれ」!!

▼パウロ・シャープス



パウロ・シャープス(3-終)

これまで2回に亘って3月に亡くなったパウロ・シャープスが建築家としてベレンの街中に残した作品群についてその魅力を交え書いてきた。それぞれの作品は、そこを訪れる人にさりげなくベレンの歴史を語りかけてくれる貴重なモニュメントだ。

パウロ・シャープスは、アルミール・ガブリエル（Almir Gabriel）、シモン・ジャターネ（Simão Jatene）両州知事（PSDB）の下で文化長官を務め、建築家としての能力を発揮しつつベレンの都市計画に腕を振るう一方で、20年近く州の文化政策にリーダーシップを発

揮した政治家だった。音楽関係では、マナウスのアマゾナス劇場とともにアマゾン地域を代表するオペラ劇場であるベレンの平和劇場（Teatro da Paz）の創設100周年記念修復を手掛けた。また、同劇場の交響楽団の創設にかかわり、さらに、今やベレンの人気イベントとして定着した同劇場のオペラ・フェスティバルも彼のアイデアだった。

オペラ劇場の拡充に尽力する同人に対し、庶民の生活とはかけ離れた「エリート主義」だとの批判が行われた。これに対し彼は、「自分にとって大衆音楽とクラシック音楽の間にはそれほど大きな壁はない。オペラ劇場である平和劇場に魂を吹き込むためにオペラ・フェスティバルを始めたが、一般市民の支持を得て毎回連日満席の盛況となっている。同時に、土着音楽であるカリンボー（carimbó）発

祥の地とも言われ豊富な音楽資源を有する州北東部サルガード地方（Região do Salgado）でも劇場や音楽学校の改修に取り組んでいる。不毛な議論を行う前に州における音楽の将来のためにやるべきことはたくさんある。」とインタビューで答えている。

以上に加えて同人の功績として特記されるのは、彼の始めたベレン市のブックフェアだが、これについては、本誌2019年11月号に書いたので参照してほしい。

パラ州は、千葉県と姉妹州県関係を結んでいるが、同人はその関係で訪日したことがあり、知日家だった。

2015年の修好120周年記念事業実施においては、ジャターネ州知事のイニシアティブの下パラ州政府は、最大限の協力を惜しまなかったが、パウロ・シャープスは、日本をその年のブックフェアのテーマ国に指定、「日本文学に関するラウンド・テーブル」はじめ日本関係の多くの記念事業を実施したほか、会場内に和食レストランを設けた。レストランの入り口や内部に数千羽の折り鶴を飾ったが、これが市民に好評であった。パウロ・シャープスの声掛けに応え、多くの日系団体や漫画・アニメ愛好者団体等関係者がボランティアとして参加、毎晩徹夜して折り鶴制作に携わった。

パウロ・シャープスの少し頑固そうな顔を思い出しながら冥福を祈る。（MK）



▲折り鶴で飾られた和食レストラン
写真提供：鎌田ローザ

Churrascaria Que Bom!

www.que-bom.com

Produzido pela **ATHLETA®**

LOJA ASAKUSA

TEL: 03-5826-1538

TOKYO-TO TAITO-KU
NISHI ASAKUSA 2-15-13 Nikkoshi B1F

LOJA SHIMBASHI

TEL: 03-6402-5685

TOKYO-TO MINATO-KU
SHIMBASHI 4-1-1 SHINTORA CORE 2F

日本ブラジル中央協会

法人・個人・学生

新規会員募集中

会 員 数 法人会員 104社 個人会員 約480名（2021年10月現在）

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会 員 特 典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布。
隔月発行、年6回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に参加できます。（会員限定イベントへも参加いただけます）
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます。
4. 会員宛にメールでお伝えする、様々なブラジル情報をご覧頂けます。
5. ホームページにて、会員限定情報をご覧頂けます。

年 会 費

※入会金は不要です

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円
(2口以上) (1口以上)

お 申 し 込 み



《日本ブラジル中央協会公式HP》

<https://www.nipo-brasil.org>

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。

冬期ポルトガル語講座のご案内

当協会では、“楽しく学ぼう!学んで話せるポルトガル語!”をモットーに実用ポルトガル語講座を開講しております。

冬期ポルトガル語講座は、2022年1月11日～3月上旬まで開講予定です。
※詳細が決まり次第、HPにてお申し込みを開始します。

イベントのご案内

関口ひとみ 前在マナウス日本国総領事 オンライン講演会 演 題：広いブラジル、南と北で感じたことは

日 時：2021年11月30日（火）10：30～12：00 <日本時間>
開催方式：zoom ウェビナー
参加費：[会 員] 無料（法人会員の在ブラジル子会社の駐在員も含む）
[非会員] 1,000円

六浦吾郎 元米州開発銀行上席専門家 明治大学 商学研究科特任研究員 オンライン講演会 演 題：私が見たブラジル～米州開発銀行の取り組みと貧困格差社会の現実～

日 時：2021年12月17日（金）10：00～11：30 <日本時間>
開催方式：zoom ウェビナー
参加費：[会 員] 無料（法人会員の在ブラジル子会社の駐在員も含む）
[非会員] 1,000円

ブラジル関係有志による”友の懇親ゴルフコンペ” ＜当協会、在日ブラジル商工会議所関係者有志＞

日 時：2021年11月18日（木）
9:45(イン)9:52(アウト)に分かれて tee off
場 所：JGM おごせゴルフクラブ（旧名称：埼玉ロイヤルゴルフ倶楽部）
参加費：14,500円（プレイ代、キャディフィ、昼食、税込み）
+3,000円（パーティ、賞品代）



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



Be Sustainable!

シトロスッコ社は
フェアトレードオレンジ果汁を通じて
家族経営農家を支援しています。



日本フルーツジュース株式会社
新住所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1
有楽町電気ビル南館10階
Tel: 03-6453-6733 Email: sales@nfj.co.jp

www.citrosuco.com.br

ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を

ブラジルでビジネスや生活をする上で
欠かせないのがポルトガル語です。
BrAsia(ブレイジア)では、
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。
「講師任せにはしない」
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。



BrAsia (ブレイジア) 運営: 株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階
TEL03-6263-0716
お問い合わせは E-mail: brasia@kanwajuku.com HP: <http://brasia-j.com/>

VAMOS

ブラジル国及び
南回帰線諸国生活情報誌

バーモス

“2022年4月発刊”
日本とブラジル同時配布!



新たな人生の発見! やさしい大地!
すべてが私たちの新しい思い出になります……



広告のお申し込みは:

(株)フォーエバートラベル (Tokyo)

(03) 3504-0419
(080) 7422-1182

360° business innovation.



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-2]

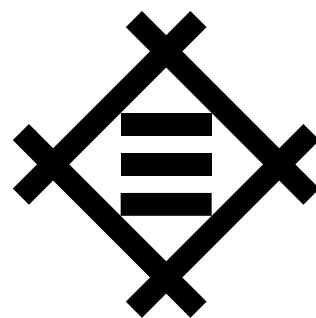
貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、増産や品質向上に貢献。



世界の未来を、世界とつくる。三井物産

MITSUI & CO.